

## くり返しの形状・分布と機能

杉山 ますよ

### 1. はじめに

話しことばに顕著にみられる特徴のひとつにくり返しがある。様々な場面を観察するとくり返しの形状は「早く、早く」というような短い言葉をくり返すものや、料理番組の最後にもう一度使った材料や手順などをまとめてくり返すものもある。またくり返しのタイミングも先行発話の直後にくり返されるものや間をおいてからくり返されるもの、あるまとまりの発話内に数回くり返しが起こるものなどさまざまである。機能も全ての談話に同一のパターンで現れるわけではなく、談話がくりひろげられる状況によってもその現れ方は異なるものと思われる。そこでデータを3つの異なる状況の談話からとり、どのような形状のものがどのようなくり返しの分布(タイミング)の際に、どのような機能を果たすのかを探っていく。

### 2. 先行研究

くり返しの研究は牧野(1980)、Tannen(1989)、中田(1991, 1992, 1996)やNonsinger(1994)、杉山(1997, 2000)などがある。牧野は「くり返し」を反復として日本語のみならず、英語のくり返しの機能にもふれているが、機能に焦点をあてた研究ではなく、くり返しの形状や分布にはふれていない。中田はJacobsonの言語の六つの機能(関説的機能、交話的機能、心情的機能、動能的機能、詩的機能、メタ言語的機能)に談話構成的機能を加えて七つの機能の分類を抽出し、さらに形状も六つの形状(再現型、一部変更型、補足型、言い換え型、

要約型、対句型)をあげて一応機能との関連を記述しているものの、各々の形状について踏み込んだ取り組みはなされていない。杉山は中田の形状にさらに並べ換え型を付け加えた7つの形状をあげ、異なる談話構造、文脈におけるくり返しの形状の出現についてとりあげている。くり返しのタイミングについてはTannen、中田もそれぞれのデータからとりあげ、直ぐ続くもの、時間をおいてくり返されるものを指摘している。機能の面からくり返しに取り組んだ研究はあるが、形状からの研究はまだ充分とは言えない。そこでくり返しの形状に焦点を充て、くり返しのタイミングを分布として、機能との関係を明らかにしたい。

### 3. 研究方法

データは番組構成が確立されているテレビ番組からとった。対談タイプ(40分×4)、実演タイプ(7分×4)、講議タイプ(15分×4)の3つの番組である。対談タイプは対談番組で二人が雑談をしているような設定、実演タイプは料理番組のような番組で作業をしながら情報提供している設定、講議タイプは聞き手であるアナウンサーが存在するものの、話し手が主に講議のような形式で話すように情報を提供する設定の番組である。それぞれの番組を文字起こしたものを「くり返しの形状」や「くり返しの分布」を誰の発話のくり返しかという観点で整理、分析する。

ここで扱う「くり返し」は広くとり、話者自身の発話のくり返し、相手の発話のくり返し、また形状も先行する発話をそのままくり返したものだけでなく、意味を保持した言い換えや要約も「くり返し」とした。

#### [文字化の記号の説明]

H: 聞き手 S: 話し手

○: 固有名詞      ・: ポーズ      ~: 文字化の省略部分

下線があり、文字が斜体になっている部分はくり返し部分

#### [文字化以外で用いた記号]

くりかえしのもと: P      くり返し: p'

くり返しに付加されることがら: Q

## 4. くり返しの機能とタイプ（形状・分布）

本稿で扱ったくり返しの機能と形状と分布の分類を本節で示す。

### 4.1. くり返しの機能

今回のデータで主に4つの機能のくり返しがみられた。本稿ではそれらの機能をより詳細に観察していくと、それぞれの下位の機能がみられた。

(1) 何かを述べたり、情報をやり取りしたりするような伝達内容重視の働きを助ける機能（強調／理解強化／説明の明確化／補足説明／応答・確認、話題提示）  
(2) 言葉のやり取りの接触を保つ機能（あいづち的なくり返しなど）、そして(3) 会話における話し手の心情や態度に関わるくり返し（話し手の心情の強調、相手にたいする共感、一体感を表出するくり返し）、(4) ある談話の運営に関わるくり返し（話題の継続、話題の展開、話の収束、話のまとまりの表示、話の呼び戻し、話題提示）である。

### 4.2. くり返しの形状

くり返しの形状は中田（1992）の6分類に並べ替え型を加えたを加えた7つの形状（杉山1997）があるが、今回はデータをより詳細に観察し、くり返しの形状と出現の分布も考慮して分類をした。中田の一部変更型は分類が曖昧なので、頻繁に観察された形状で先行発話から一部取り出して、くり返す形状と先行発話をくり返す際に、一部変更するものを合わせて、一部取り出し・変更型を分類にとりあげた。

くり返しの形状として7つあげたが、各形状でもバリエーションがあり、全てを記述するのは難しい。そこで、データでみられた各形状の典型的なものをあげる。

#### (1) 再現型（ほぼ同じ形式で繰返す）

例1) H: これ何でしょうね。

S: エルフ。

H: エルフ。

[対談タイプ]

- (2) 取り出し・一部変更型（先行発話の一部を取り出しくり返す、あるいは一部変更し、くり返す）

例2) S : ええ、報知新聞のカメラマンだったんで、どちかっていうと、相撲なんかスポーツの方で活躍なさっていたそうで。

H : スポーツの。 [対談タイプ]

- (3) 補足型（何かを付け加えてくり返す）

例3) S : ～～今度はアレルギー以外の刺激に対して敏感に反応することになります。そういうことが起こらなくなってくる。ですからアレルギーを治すということはそういう火事を消す。ちゃんと早くに消して長い間症状を起こさないことにすることによってですね、実はその敏感度を押さえる。 [講義タイプ]

補足型にもいくつかバリエーションがあるが、例のように動詞の場合『消す。』のようにとめる、次に「消して」とか「消すことによって」とか同じ動詞をくり返して、話を展開させていく補足型の形状の一つである。

- (4) 言い換え型（意味を保持してことばを言い換える）

例4) S : そう、1センチ角の薄切りのことを色紙切りといいます。

この形状は後で述べるが直後分布でよくみられる。 [実演タイプ]

- (5) 要約型（内容をまとめた形式でくり返す）

例5) H : ～～朝、新聞をお広げになると、もう、印し、大変なんですって。

S : ええ、そうなんです。あの、息子達がでてますね。番組ね、赤でそこに印しつけて。

H : ビデオ、そこでとるわけなんですよ。

S : それは、主人かね、朝、新聞開いて、それでビデオとるわけです。

H : 御主人がビデオを全部セットして、貴方が印しつける人。

[対談タイプ]

(6) 対句型

例6) S: ~、最初からずっと火をつけておきますと、最初に入れたお肉と最後に入れたお肉の火のとおる時間が違ってきますね。[実演タイプ]  
ある基本部分をくり返すことによって類似点、相違点を明確にする。

(7) 並べ替え型

例7) S: ~もっと民衆の中で歌われ、口づさんでいたものを言うんですけどね。だから、ただ歌っていう言い方してましたけどね。僕なんかの年でさえ、民謡という言葉はあまり使わない。

H: 民謡という言葉はみんなは使わないで、歌って言っていた。

文や句の要素のキーワードを後に位置する句、節や文などと並べ代える形状である。

4.3. くり返しの分布

くり返しの分布の分類としては、ある単位の談話／発話内で、くり返す「もと」をPとし、くり返しをp'とした。今回のデータから4つの分類を抽出した。Pにすぐ続くくり返しp'を「直後分布」、Pとp'の間に情報やある長さのやりとりを挟んだくり返しを「挟み分布」、幾つかの先行発話(P1、P2、P3)、をまとめて提示するp'「収束分布」、ある談話の中に語や句、文(P1、P2、P3・・・)が数回(p1'、p2'、p3'・・・/p1'', p2'', p3''・・・)くり返し出現するものを「散在分布」とした。

【 直後分布 】 Pp'

例8) H: ~。その今やっている番組のちょっと前の番組ですが、TB、TBSの…

S: 主人ですか。

H: えっ、まあ、主人なんてずっと言っちゃう、主人なんてずっと言っちゃう。 [対話タイプ]

もとのPの後にすぐp'が続いて出現する分布である。例8)は自己の発話内の直後分布であるが、他者のくり返しの直後分布は形状の再現型の例1)のようないづちや応答などのように相手の短い発話をすぐくり返すものである。

【 挟み分布 】  $pQp' / pQQQp'$

例9) S: ~ ~ そのコレステロール、測りますから、善玉コレステロール、高ければよいという意味で善玉コレステロールと呼ばれたわけです。

[講義タイプ]

Pとp'の間に情報Qが挟まれる分布で例9)は挟まれた情報量が少ない、このような場合は補足説明であることが多い。また、挟まれた情報量が多い場合はある話題の収束を表す場合が多くみられた。岡本(1990)は電話会話の分析でそれまでの話の内容をまとめたり、既に出た話題を呼びもどすことは電話会話の終結を示すといっているが、中田(1992)で通常の会話においても同様のことが言えるのではないかと指摘している。杉山(1997)の研究では中田の指摘が妥当だということが述べられている。

【 散在分布 】  $(P、p'、p'' \dots) / (P1、P2、P3 \dots) (p1'、p2'、p3' \dots / p1''、p2''、p3'' \dots)$

例10) S: 抜き取って、で、それが今度はVLDLとかLDLにあるタンパクを通じて(P) 受け渡して、(p') ちょうどパスする、あのう、(p'') ラグビーでボールをパスするように(P''') コレステロールをLDLに渡して、今度肝臓に運びもどすと、そういう働きをする。

例10)のようにある発話内に数回くり返しがちらばっている分布である。この例は理解の強化の働きをしている、何回も言い換えたり、説明を付け加えたりしてくり返している。

【 収束分布 】  $\langle (P1 + P2 + P3) \rightarrow p' \rangle$

例11) S: (P1) 1ヶ月。それで、まあ15万円、給料日になったら、おろして、

女房に渡すわけですよ。～～～

それがね、(P2) 600万円入っていましたね。

H: (P3) 振り込まれてたの。

S: 振り込まれてたんですよ。

H: (p') 毎月15万円出している人のところへいきなり600万円振り込まれてたの。

S: そうなんですよ。

[対談タイプ]

幾つかの話し手と聞き手とのやり取りで出現した語や句などをまとめるようにして談話の終わりのほうに出現する分布である。その要約によりある話題が収束し、次の話題へと移行する現象がよく見られる。

## 5. くり返しの形状・分布と機能の関係

前節では今回のデータで頻繁に出現した「くり返しの形状」を7つと「くり返の分布」を4つ抽出し、解説した。これらをもとに本節ではくり返しの形状と分布が機能にどのように関連しているかを明らかにする。しかし、くり返しの形状、分布、自己発話のくり返し/他者発話のくり返しと機能との関係はバリエーションが多い。今回は顕著に出現した基本となりえると思われるパターン(形式)をとりあげ記述する。ここでいうパターン(形式)とはくり返しの4つの側面の組み合わせである。以下「自己発話のくり返し」は「自己のくり返し」、「他者発話のくり返し」は「他者のくり返し」とする。

### 5.1. 再現型

再現型はある言葉、句、文などをほぼ同じ単位でくり返す形状である。これには直前の言葉などをすぐくり返す直後分布とあるまとまりのある発話の中に数カ所くり返される散在分布がある。

#### 自己のくり返し

【 心情の強調 】 〈P, p'〉

例12) H: ～～。なにしろ、お母さんってそうだと思うんですよ。なんか20・・

25、26そこまで丹精こめ、作ったものが女の子ができたなら、もう1秒で

そっちへ行っちゃ、それはいやだ。

S : そうなんです。～～私が一生懸命に一生懸命に育てたのがね。さあ  
と好きな人がいるために、どうしてもその女の人のほうにぱっと傾きま  
すね。それは一瞬のものですよ。 [対談タイプ]

インタビュアーの質問に対して、「一生懸命に」を話者が先行発話の直後にくり返し、その息子を嫁に取られるのは辛いという気持ちが強く表されている。音声でもここは強く発話されていて、ここからは自分の息子に対する気持ちが強く表出している。この例のように短かめのp' がPのすぐ直後にくり返されている場合はもとの発話に何か付け加える手間やくり返す時間を必要としない発話なので、よりストレートな反応がされる場合にこの形式は用いられている。田中は火事の通報の例「火事、火事、火事です、火事です」という例をあげているが、これは急なトラブルの発生のための驚き、動揺から、「火事です」と言えばいいところを数回くり返している。このように再現型は情動的なものが強調されることが多い。

【 強調 】 〈P、p'、p''・・・〉

例13) S : もう何もなくて、それで引き出し開けるときちっと鉛筆はサーとね。  
で、台本なんかもきちっと置いてあって、～～～肝心なところ折ってあ  
たりね。鉛筆でねきちっとね。それがね、きちっといまだに置いてある。  
ですからね、何かとれば、もうすぐね、「ママ、いじただろう」って  
わかるんです。政伸のほうはもうごちゃごちゃです。 [対談タイプ]

あるまとまった発話内でのキーワードの数回のくり返しも同様に話者の情動的なものが強調されている。例12) は直後分布、例13) は散在分布である。

他者のくり返し

【 相手との共感、一体感 】 〈P:p'〉

例14) H : でも、仕事がないというのはすごい、悲惨ですね。

S : 本当、悲惨ですよ。これは、だからね。昼起きるんです。朝早く起き



ると一日長いでしょ。昼起きなきゃだめなんです～ [対談タイプ]

インタビュアーが相手の話感想を述べ、それに対して話し手であるゲストが同意する際によくみられる。これにより、ゲストはより聞き手であるインタビュアーに心情的に近いものを感じ、一体感を感じ、より話を積極的に続けている。また相手の発話の後に、より強い同意や共感を表す際には発話スピードも通常より速くなり、発話時の話し手が聞き手のほうへ身を乗り出して話すような様子もうかがわれる。

Tannen (1989) は「くり返し」は話し手の involvement (会話において話し手が話に心情的に入り込んだり、相手と共感を分かち合ったりすること) を表したり、参加者相互の involvement を高める方策だと指摘している。心情的な機能を表すものは比較的くり返しの単位は短い。

【 応答・確認 】 〈P:p'〉

例15) S: それはね。お茶の間っていいですか、食堂に貼ってあるんです。みんなが見られるところにね。

H: 今でも? ↑

S: 今でも。↓そうしますと、やっぱり腹がたった時にそれを見るとおかしいでしょ。だから。

[対談タイプ]

話し手の発話に対して、聞き手が疑問の部分だけを適格に聞き返し、それに対して話し手が必要な部分だけを適格に答えている。これは対談番組の例であるが、このような応答形式は頻繁に見られる。このように相手の話で疑問を感じたところ、あるいは確認したいところを短くくり返すものは対談番組によく見られ、話をスピーディーに展開させるという機能もある。また日常の雑談のような会話でも、必要な部分のみをくり返し、やり取りする現象は頻繁にみうけられる。

【 あいづち 】 〈P:p'〉

例1) H: これ何でしょうね。

S: エルフ。

H: エルフ。

[対談タイプ]

あいづちとしてのくり返しは対談番組でよく観察された。「そう」「ええ」などばかりをくり返すと相手の話に対する関心度が低く思われてしまうこともある。また心理的にも離れた、あるいはうちとけていない雰囲気相手を相手に与えてしまうこともある。ある状況では相手の発話をきちんとくり返すことによって、相手の発話を明確に聞き取ったかの表示になり、間違っくり返した場合は相手が修正できるので、同時に正誤確認になる。ここでいう「あいづち」とは、相手との接触関係を保つ機能のことであり、その発話の量は通常は少ない。

## 5.2. 取り出し・一部変更型

### 自己のくり返し

【 話題のまとめ表示 】 <P1、P2、P3 / p1'、p2'、p3'・・・>

例16) S: それで朝は弁当がいるかいらないかということね。メモにね、書いてとけというふうにしといてね。こっちがわにメモ帳をあの、政宏たちが書けるように、そして、そこにメモしてね。そこへ朝起きてくると、私と手伝ってくれる○さんという人がいるんです。それを見て今日は六時に出発。お弁当いるな。そしたら六時までにお弁当作っておくんです。で、そういうあれに全部主人するんです。マネージャーみたい。

[対談タイプ]

「お弁当がいる」と「メモに書く」という基本のPが話し手の発話の中に散在している。先行発話の一部を取り出し、多少変更を加えてくり返している。このように幾つかのキーワード、キーフレーズなどがくり返し形を変えて使われている。話題として「お弁当がいるかどうかのメモをする」ことについて話されていることが明示されている。語のくり返しは発話間の結束性を表示するひとつの手段となっている。(Halliday and Hasan 1976) また特定の語が会話のあちこちに出現して、キーワードとして語を統合していく場合もある(中田 1997)。このような散在分布は談話構造的機能としては結束性を表示するが、それと同時に話題の継続、つまりどのような内容の話が継続しているかを表す。

### 他者のくり返し

【 応答・確認 】 〈P: p'〉

例17) H: だんな様が一番速いんですか。

S: 速い。うーん、みんな、あっと思うけど、行くからいいわとほっとく。  
電話みながらほっとく。 [対談タイプ]

相手の質問に対して必要な情報のみを手短かに答える。これは対談番組によく見られた。またこの形式をとるものに相手の発話でよく分からない部分のみをくり返して確認するものもある。

【 あいづち 】 〈P: p'〉

例18) S: ～～もう一日中パジャマでいる人ですから、パジャマの上にガウン着て、それで、「あれ、どこへ行くのかな」と思ったら、ドア、ガチャンとパジャマのまま出て行って、ポストに入れに行った、そしたらね、途中でね、パーティかなんかの人と会った、元旦のね、こそこそと

H: パジャマで。 [対談タイプ]

話し手の発話でパジャマが含まれる発話から「パジャマで」というように、特に強調されている言葉をくり返すことによって、相手の話をよく聞いているという聞き手の態度が表出している。「応答・確認」、「あいづち」も再現型と同様にくり返して取り出す発話の量は少ない。

### 5.3. 補足型

この形状はくり返す際に、P に何か情報 Q を付け加えてくり返す形状である。

### 自己のくり返し

【 話題提示・継続 】 〈P, p' Q ～〉

例19) S: ～～猫の場合にはだ液です。だ液が毛について、それが飛びますから、非常に微粒子で部屋の中を飛んでいきます、～～

このように文を『N (名詞) + です』で終わり、『N が～』で話が継続している。動詞の場合は辞書形やます形などで文を終わりにし、次の発話を始める際に

その動詞をくり返すことによって話を接続し、継続させている。3節であげた「～消す。ちゃんと早くに消して～～」動詞をくり返して話を続けている分布であり、このように接続的な働きをしている。

【 話題の展開 】 〈P、p'Q～〉

例20) S : ～～だから、タンパクと一緒になって、こういう粒子ていうか、つぶ  
つぶですね、そういう粒子となって血液中に一緒に運ばれていく。～～

[講議タイプ]

この例はいわゆる講議タイプの構成の番組で、話を展開していく際にみられる形式である。その専門家が専門の知識を視聴者に提供する際に非常に頻繁にみられた。一方異なるタイプの実演タイプでもみられたが、いづれも独話の際にある事柄を説明している際によくみられる形式である。

【 補足説明 】 〈PQp'〉

例21) H : なんか墓碑名を考えたって、高島忠雄さんはね。自分がなくなった時のお墓になんと書いたらいいか墓碑名を考えたって、あまり長くて私、  
覚えられないんです。

[対談タイプ]

この例は初めにトピックを手短に提示する。そのあとにさらに必要な情報をPとp'の間に挟み、付け加えて、相手に分かりやすくする。この形式のくり返しも非常に多くみられた。しかし補足説明の場合挟まれる、あるいは付け加えられる情報量は少ない傾向がある。挟み分布の場合は〈PQp'〉で、直後分布の場合〈P、p'Q～〉はp'の後の発話は文が短く終わる。

【 話題の呼び戻し 】 〈P…p'〉

例22) S : あの人はこるたちなんです。

H : すみませんが、高島さんの右側にいらっしゃるのは有馬さんといって、このテレビ朝日のプロデューサーと一緒に座っているんです。

S : あの人はこるたちなんですね、痩せようと思うと自転車買ってね。寝室

の横の廊下のところにそれを置いてあるわけなんです。～～

[対談タイプ]

これは話し手が「あの人はこるたちなんです」と話し出したが、聞き手にターンをとられてしまい、話題を呼び戻す際に、もう一度トピックセンテンスをくり返して、話し始めている。この場合は相手の発話が挟まれているが、自己の長めの発話が挟まれている場合も同様に「話題の呼び戻し」のはたらきがある。他者の発話のくり返しでも聞き手であるインタビュアーがゲストである話し手のかなり時間的に先行している発話から話題をもう一度呼び戻し、話をしている例もみられた。

#### 他者のくり返し

【 あいづち 】 〈P : p' Q ~〉

例23) S : ワンカップ大関をね、五本。

H : 五本づつだって、気があったんだと思うわ。

S : いや、もう金曜日、それは金曜日の午後で～～ [対談タイプ]

例23) は聞き手は話し手の「五本」に感想を付け加えてくり返している。他の発話例ではやはり相手の発話の一部をとりあげてくり返し、短かく簡単に様子などを付け加えている。このようなくり返しは対談タイプの番組によく観察されるくり返しである。簡単に「そうですか」や「五本」とくり返すより、感想を付け加えた発話により、話し手の話す気分を刺激すると思われる。話し手の次の発話はうれしそうに「それは金曜日の午後で」と続けていることからもうかがわれる。またこのくり返しは相手の発話をすぐくり返し、後ろに感想などが付け加えられたものだが、先に感想などが述べられる挟み分布もある。この感想や印象、あるいは評価を簡単に付け加えることにより、相手の発話意欲を刺激している発話は多い。

【 話題の展開 】 〈P : p' ~ ~〉

例24) H : ああ、やっぱり世の中少しは変わっていますね。

S : 変わったんですね。だから私達、先輩とか、同僚、同じ歳でもねえ、若くて結婚した人達がさんざんそういうことで悩んだり、苦労したのを見てきたんで、私は本当に仕事しながら、来春できますって、極端な話ですけれども、生んで、仕事がせっかく入ってきたんで、続けられないだろうなあとこう、自分では思ってたんですけどもね。そんなに甘くないだろうって思っていたら、むしろ時代はそこまで来ていたんだなあっていう・・・

[対談タイプ]

例24) は相手の「世の中少しは変わっていますね」という発話に共感してくり返し、変わった話を具体的にして話を発展させていっている。くり返しの後に次々に話が続いていくわけである。

#### 【 話題の収束 】 〈PQp'〉

例25) H : まあ、さきほどの図にありましたように、大変良い子であった、親の言うこともよく聞く子であった、だから御飯を食べなさいと親も言ってしまうんですが、そのへんもちょっとおさえておくこともいいかと思えますね。

S : そうですね。親御さん、食べないで、痩せていると、死んでしまうんじゃないかっていう心配ありますから、お気持ちはよくわかるんですけども、まあ、そこを3回いうところを1回にするとかですね。少しおさえていただくとよろしいかと思います。

[講義タイプ]

これは聞き手であるアナウンサーが今までの話をまとめて提示した後のPの発話を挟んで話し手である医師が様々なアドバイスを述べた後で、p' を述べ、話を終了している。

#### 5.4. 言い換え型

##### 自己のくり返し

#### 【 理解の強化 】 〈P、p'〉 〈P1、p1' / P2、p2'〉

例26) S : ～～どういふふうになっているのかご相談して、で、現状を維持して

いくと、・・・で、なんとか、現状を維持できれば、時間を稼いでいくと、時間をかけていくと、・・・それが、親御さんがですね、食べないのに無理に食事を強制しますと、～ [講義タイプ]

このように一部は同じで他の部分は言い替える「稼いでいくと」、「かけていくと」のような形式がみられる。また4節の言い替え型の例4)のように全て言い替えるものもある。両形式ともよくみられる形式である。

例27) H: ～～それから、外科治療は(P1) 新しい血液のルートを作ってやるバイパス治療、(p1') 人工血管を使ったり、あるいは患者さんの静脈を使ったりという方法で血液の新しいルートを。最近(P2) 血管内治療というのが行われるようになった。(p2') これは手術をしないで血管の・・・つまった血管をなおしてやるという方法であります。

[講義タイプ]

二つの外科治療について解説しているが、P1の専門用語である「バイパス治療」をp1'で言い替えている。もう一方のP2「血管内治療」をp2'でわかりやすく言い替えている。このような言い換えは講義タイプの特徴をもった医療番組で多用され、特に専門用語の解説に顕著にみられた。この言い換えはほとんど直後分布であった。

## 5.5. 要約型

### 他者のくり返し

【 話題の収束 】 <(P1 + P2 + P3) → p'>

例28) 1 H: ～どうして小さい小学生が三味線を弾いてみたいとお思になった  
んですか。

2 S: そうですね。(P1) ギターをね、本当は弾きたかったみたいですね。

3 H: ええ。

4 S: それで(P2) 地方だったもんですから、ギターが、演奏する人が趣味でもやっている人がいなかったみたいですよ、回り見回して。

5 H : ええ。

6 S : それで、(P3) 三味線も糸がついているからいっしょかという  
とで習ったんですけど。

7 H : (p') 本当はギターやりたかったのに、弦がついているから、同  
じだから、近くにみんなやってんだからという話で。

8 S : そうですね。 [対談タイプ]

話し手の2S、4S、6Sの発話をまとめて、P1は「本当はギターをやりたかったのに」、P2「近くにみんなやってんだからという話で」、P3「弦がついてるから同じだから」というようにまとめられている。聞き手は話し手のP1、P2、P3を(p')のように要約し、話し手に提示することで、その話題を終わらせている。

【 確認 】 <(P1 + P2 + P3) → p'>

例29) S : ~太るという、(P1) 肥満があるとコレステロールが下がると言わ  
れていますし、あのう、(P2)例えば運動不足ですね。運動不足はHDL  
コレステロールを下げるってことはよく分かっておりますし、(P3) た  
ばこなどもHDLコレステロールを下げることもよく分かっております。  
~~~。

H : はははあ、例えば (p') 肥満とかあるいは運動する、たばこをやめ  
る、そういうことによって、このHDL善玉コレステロールの数字が高  
くなるということですか。 [講義タイプ]

これは聞き手であるアナウンサーが話し手である医師の長めの説明を「肥満と運動不足はコレステロールが下がる」というような内容を「運動したり、たばこをやめると善玉のコレステロールがあがる」と要約して提示し、確認している。この講義タイプのものは理解の強化のための確認という機能が対談タイプのものより強い。そして確認することによって、前の話題が終了する。



## 5.6. 対句型

この形が相対する二つのものについて述べる際によく見られる形式であり、講義タイプの番組によくみられた。

### 自己のくり返し

【 理解の強化 】 〈P、p'〉

例30) S : そう、そうですね。あのう、同じような喘息でもそうですし、アレルギー性鼻炎でもそうですけども、同じような症状がでてきてもアレルギーによって起こる症状とアレルギーによらない症状を見分ける必要があるだろうと思います。 [講義タイプ]

この形状は説明していく際に、対になったある部分をくり返すことは、異なる他の部分を浮き上がらせることになり（浮き上がらせた部分を太字で示した）、理解しやすくなる形状である。この関係については Tannen (1989) が同様の指摘をしている。

## 5.7. 並べ変え型

### 他者のくり返し

【 あいづち 】 〈P:p'〉

例31) H : でも、やっぱりそれからまた、違う時にドーンと入ってきました？

S : ええ、入ってきますね、それがドーンと。 [対談タイプ]

例31) は話し手の質問に「ええ」だけでもいいのに、相手の発話をくり返している。しかも相手の発話の時間的に近いほう「入ってきますね」から遠いほう「ドーンと」と逆に戻るような並べ替えである。これは記憶の再現は近い方からが効率的であり、新しい情報も付け加えられていないということで、この形状のくり返しは時間も労力もほとんどかからず、ストレートな反応ができる。したがって「あいづち」に近いものや心情的なものを表出している。しかしもとの発話「ドーンと入ってきました」をそのままくり返すよりも話し手の発話の後、すぐに聞き手が「入ってきますね」とくり返すほうが、話にはずみがつきやすい。また話し手がインタビュアーに協力して話を盛り上げている印象をあたえる。

## 6. まとめ

くり返しの形状と分布と機能の関係をまとめて図にしたものである。今回のデータでは形状は7つ、くり返しの位置関係の分布は4つ見られた。

表1 くり返しの形状と分布と機能

| 形状                  | 分布   | 自己のくり返しの機能  | 他者のくり返しの機能                             |
|---------------------|------|-------------|----------------------------------------|
| 再現型                 | 直後分布 | 心情の強調       | 応答・確認、あいづち<br>相手との共感・一体感               |
|                     | 散在分布 | 強調、心情の強調    |                                        |
| 取り出し型<br>・<br>一部変更型 | 直後分布 | 話題のまとめり表示   | 応答・確認、あいづち                             |
|                     | 散在分布 |             |                                        |
| 補足型                 | 直後分布 | 補足説明、話題の継続  | あいづち<br>話題の展開、あいづち<br>話題の呼び戻し<br>話題の収束 |
|                     | 挟み分布 | 話題の展開       |                                        |
|                     |      | 話題の呼び戻し     |                                        |
|                     |      | 話題の収束       |                                        |
| 言い換え型               | 直後分布 | 補足説明        | あいづち                                   |
|                     | 散在分布 | 理解の強化       |                                        |
| 要約型                 | 収束分布 | 理解の強化、話題の収束 | 話題の収束、確認                               |
| 対句型                 | 直後分布 | 理解の強化       |                                        |
| 並べ換え型               | 直後分布 |             | あいづち                                   |

ブランク部分は今回のデータでみられなかった部分である。表1と5節の分析をまとめると次のようになる。

- (1) 比較的短かめな再現型の直後分布に情動的な表出がみられる。特に自己の発話のくり返しに顕著にみられた。
- (2) 要約型、対句型以外では他者のくり返してあいづちの働きがみられた。あいづちは素早い相手への反応を示すので、どの形状でもくり返しの単位は比較的

短く直後分布であった。

- (3) 補足型ではあいづちは簡単なくり返しの後に感想などを付け加えるもの ( $Pp'Q$ ) ともとの発話とくり返しの中に感想などを挟むもの ( $PQp'$ ) が観察された。この両者の構造が自己のくり返しとなると、補足説明となる。「自己のくり返し」でも「他者のくり返し」でもくり返しの後に話が続いていくパターン ( $Pp' \sim$ ) は話題の展開の機能を果たし、もとの発話とくり返しの間に挟まれる情報量が多い場合 ( $P \sim \sim \sim p'$ ) は話題の収束がみられた。
- (4) 理解の強化は特に言い換え型、要約型、対句型によくみられた。
- (5) 複数のキーワード、フレーズなどがある談話内に数回くり返されることによる話題が継続中であることが明示される。つまりどのような内容の話が継続しているかがわかる。

このように「くり返し」はくり返しの形状、分布、誰がくり返すか、発話の量などにより、機能も様々なものがみられることがわかった。また談話のタイプによってもどの形状のどの分布のくり返しの出現に異なりがみられることもわかった。

## 7. 今後の課題

くり返しはその形状や分布、誰のくり返しか、くり返す量やくり返されるものにより、様々な働きがあることがわかった。今後はくり返しの形状と機能と分布について量的にとりあげたい。さらに散在分布の、散らばったキーワードやキーフレーズの分布とくり返しの前後のことばや文などに焦点を充てよりくり返しの構造について研究を進めていきたい。

## 用例出典

テレビ朝日「徹子の部屋」4本

読売テレビ「三分クッキング」4本

NHK「今日の健康」4本

## 参考文献

- (1)岡本能里子(1990)「電話による会話の終結の研究」『日本語教育』72号pp.145  
～159
- (2)尾崎明人(1993)「接触場面のストラテジー・聞き返しの発話交換をめぐって」  
『日本語教育』81号pp.19～30
- (3)杉山ますよ(1997)「テレビ番組における繰り返し」修士論文
- (4)杉山ますよ(1998)「進行役とゲストの発話にみられる繰り返し」『言語文化と  
日本語教育』第16号pp.46～57
- (5)中田智子(1992)「会話における方策としてのくり返し」『国立国語研究所報告』  
13号pp.267～302
- (6)中田智子(1996)「教師の発話におけるくり返し」『日本語教育』64号pp.13～  
26
- (7)堀口純子(1988)「コミュニケーションにおける聞き手の行動」『日本語教育』
- (8)堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- (9)牧野成一(1980)『くり返しの文法－日英比較対照－』大修館書店
- (10)松田陽子(1988)「対話の日本語教育学－あいづちに関連して」『日本語学』  
7巻12号 pp.59～66 明治書院
- (11)水谷信子(1988)「あいづち論」『日本語学』7巻12号 pp.4～10 明治書院
- (12)Jakobson R 川本茂雄他訳(1973)『一般言語学』みすず書店
- (13)Jhon Heritage(1985)Analyzing new interviews, Handbook of discourse  
analysis London Academic Press
- (14)Robert, E Nofsinger(1994)Repetition in discourse interdisciplinary  
perspectives: Repeating The Host pp.64～95

(15) Tannen, D. (1989) *Talking voices: Repetition, dialogue and imagery in conversational discourse* Cambridge Univ Press